

二年目を迎えて



東京都神道青年会
会長 篠 泰比呂しの やすひろ

謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を言祝ぎ奉り、国家の安寧と、併せて神宮はじめ各ご社頭のご隆昌、会員、関係各位のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

また、畏くも天皇陛下より神宮が御聴許を賜ったことを拝し、第六十三回神宮式年遷宮に向けて本格的に諸事が動き出したことは誠に有難いことであると同時に一神職として身の引き締まる思いです。国家の重儀たる式年遷宮が国民遍く奉賛を以て恙なく進むように、本格的な啓蒙に向けて、当会青年神職も心を一にして臨む所存です。さて、今期も二年目を迎え、創立七十五周年の諸事業も準備から

実行に順次移っておりますが、斯界も世相の変化の影響を大きく受けて、先の周年時ともまた異なつた環境に対応すべく調整を行いつつながら各種事業を進めております。

会期一年目は、コロナ禍において規模の縮小や自粛をした事業を従来通りの内容で実施が叶いつつと同時に現在の斯界、また当会を取り巻く環境の変化に熟慮を重ねる時間が多くあつたと回顧するところであります。時代に合ったものを採用実施するために、既存の内容を見直す必要性は年々高まっているように感じますが、どのように見直し、どのようなものを新たに選択するべきかという問題を解決することは非常に難題であります。それは、物事をどの視点で、どの視野で、どの視座で見るかによつて解答が変わってしまうためです。しかし、当会の活動理念の本質と神道が紡ぎ受け継いできた「本質」を見失うことなく主軸として堅持することで、柔軟な変化と堅実な保守を維持できると考えます。そのためには、周年の期間に「本質」が何であるのかを会員一人一人が見つめ直すことが求められます。先輩・同輩・後輩に関

わらず会を構成する「会員」が遍く私事として熟慮頂くことを切に願うものであります。

過去に固執することも、未来に夢を見過ぎることも、現状の足場を不安定にすることに繋がります。過度に物事にあたるのではなく、堅実に「中庸」なる精神を以て今を粛々と預かることが最善の道であると考えます。

間もなく戦後八十年の節目を迎えます。戦後の動乱の中に赤誠を以て発足された当会の歴史を正しく振り返り、次代により良き道を作るべく今日までの歩みから学び、この七十五年の周年期だからこそできること、やらねばならぬことを実行してまいりたく存じます。

また、前年に引き続き、周年事業、通常事業問わず、本会の目的である「会員相互の研鑽と親睦を図り、神社神道の興隆を期する」ことを中心に据え、会員一人一人の内に秘めたる想いの灯を集め、歴史から学び、今に活かし、未来を照らすべく温故創新の理念を以て各部各委員会による各種事業を展開してまいります。

当会は、様々な時代の「現役」が、多くの周囲の助けを得て多岐

に亘る問題や苦難、葛藤と対峙し、今を紡ぎ出しました。その歴史と伝統を重んじ、時代の流れを見極め、より良い潮流を掴み、何より正しく前進するために、七十五年の歴史と本質に向き合い、起点と未来を強固に結ぶために、今為すべきことに会員一丸となつて邁進してまいります。

そして内外様々な問題と困難と向き合う中に「今を生きる我々が何の上に存するのか」また「何のために生き、与えられた命を使わせていただくべきなのか」このことを熟慮し、遠く未来を担う雲孫への責任を胸に、時には小異を捨て大同につくことを選択し、世のため人のために尽くし、神社神道の興隆の一助となるよう会務に努めてゆきます。

末筆ながら、先の一年間の会運営に格別のお力をお寄せ頂いた関係各位に御礼申し上げます、引き続き先輩諸賢はじめ会員各位の変わらぬご理解ご協力を切にお願い申し上げます。



活動報告

大寒禊錬成研修会

一月十九日、明治神宮禊場に於いて、篠直嗣・奥野雅司両道彦先生のご指導のもと、大寒禊錬成研修会が行われた。また、都氏青協大井真二会長にもご参加頂いた。

今年はい取りの都合により大寒の一日前の開催となった。鎮守の社は、暖かな冬の陽光がさす好天ではあったものの、禊場周囲は冷気に包まれ大地には所々に霜柱が立っており、例年通りの大寒禊研修会らしい空気がそこにあつた。

参加者は大祓行を終え、禊装束姿で前庭に出ると、威勢のよい鳥船の音が明治神宮の杜に広がった。冷たく清らかなお水が皆の心と身体を穢れを祓い清め、魂をふるわせて清々しい気持ちとなった。



その後、明治神宮を正式参拝させて頂き、御神前にて今年も無事に禊行を達成したことを奉告した。参加者各自が神明奉仕に対する心持ちを明らかにし、日々の社務に清々しい気持ちで向き合えるようそれぞれが思いを新たにしたい新年にふさわしい研修会となった。

(豊田芳亮)



新年会

一月三十日、神田神社明神会館に於いて来賓・先輩諸賢にご列席頂き、八十名の参加のもと、新年会が開催された。

開会に先立ち神田神社を正式参拝、大前にて敬神生活の綱領を中川岳土教化部部長が前文を読み上げたのち唱和、山口祐樹監事の先導にて聖寿万歳を行った。

明神会館に移り、開会。まずは元日に発災した「令和六年能登半島地震」により、犠牲になられた方々に哀悼の意を表し、黙祷を捧げた。

その後、神宮遙拝、国歌斉唱と続き、篠会長挨拶、来賓祝辞ののち、神田神社清水祥彦宮司のご発声で乾杯、開宴となった。年末年始の繁忙期から久方ぶりに顔を合わせることもあり、参加者同士



楽しげに歓談し、懇親を深めていた。清興では恒例のくじ引きが行われ、凝った景品の数々に会場では拍手が沸いた。



あつという間に終宴となり、最後は都氏青協大井会長の鮮やかな手締めにてお開きとなった。受付では例年行っている外貨・古切手の回収だけでなく、能登半島地震の義捐金を募った。

(鶴岡慶子)

建国記念の日奉祝パレード

二月十一日、建国記念の日に原宿の表参道に於いて「日本の建国を祝う会」(大原康男会長)主催による「建国記念の日奉祝パレード」がコロナ禍以前に復して盛大に執り行われた。表参道交差点から神宮橋まで約一キロを行進し、

四年ぶりに明治神宮大前へと参進した。

奉祝パレードは午前九時三十分に分表参道で出発式が行われた後、東京都神社スカウト協議会



の日章旗隊を先頭に、江東区きよし幼稚園の子供たちによる鼓笛隊やブラスバンドが出発。渡御部では、午前九時四十五分に神輿渡御に先立ち神輿修祓式及び御霊入れ神事を神田達也事業部員はじめ三名奉仕のもと厳肅に斎行した。その後、引き回し太鼓や山車、子供神輿に続き十四基の神輿が明治神宮大前へと渡御し、沿道の人々と共に建国記念の日をお祝いした。

(神田達也)



祭祀舞 研修会

二月二十日、都神社庁に於いて都神社庁祭祀舞講師小野貴嗣先生をはじめ三名の先生方をお招きし、祭祀舞研修会が開催された。前年度はコロナ禍にあり縮小された当研修会も、久方ぶりの通常開催となった。

朝日舞は祭祀舞の基本的な動きが多く含まれているということで、午前中に朝日舞の練習を行った。今年度は初心者から常に研鑽されている方まで幅広く参加頂いたが、先生方には初心者が少しでも舞えるようにと、丁寧な指導を頂き、基礎から始めて、最終的には手足の細やかな動きや、向き、形を習得しながら流れを覚えた。

午後は豊栄舞を同様に、丁寧にご指導頂き、朝日舞で身につけた動きを思い出しながら応用して練習した。この中で、きれいに舞らしく見せるコツまでご指導頂いた。また、休憩中においても受講生同士で動きの確認をする姿が見られ、動きがわからない箇所は積極的に先生に教えを請い、経験者からもアドバイスをうけるなど親睦を深めながら皆一生懸命に祭祀舞の習

得に励んだ。

最後に

取り組んだ成果を、都神社庁神殿に奉納した。緊張感のある本番で舞を納めること



で、今後それぞれのお宮で活かせる経験になったと思う。大変有意義な研修会となったが、私を含め初心者参加者にとつては、祭祀舞を始めるきっかけであり、しっかりと身につけていくためには、これからも練習を重ねていくことが大切だと感じた研修会であった。

(佐和橋義之)

献血奉仕活動

二月二十四日、湯島天満宮の境内に於いて、都氏青協役員の方々との協力し献血奉仕活動を行った。当日は天候にも恵まれ、境内には梅まつりへ訪れる参拝者も大勢おり、四十五名の方々に献血のご協力を頂いた。

今年度より都神青役員の神社S

NSアカウントからも告知を行い、また近年では、「神社de献血」など各社の取り組みにより神社界に献血活動が浸透してきている。

都神青においてもより積極的に展開してゆき、必要性を幅広く周知して継続してまいりたい。



一月三十日から二月二十九日まで都神社庁、また新年会会場にて外貨・古切手収集を行った。

外貨・古切手収集

(毛利勇人)

本事業にて皆様からご協力頂いた外貨については、合計約七十五キロを公益財団法人日本ユニセフ協会へ、古切手に関しては、合計約二キロを特定非営利活動法人日本郵便文化振興機構へ寄贈を行った。本年も多くの皆様のご協力により事業を開催し、各団体へ寄贈できた。

今後とも収集事業を行っていき、社会福祉の増進に貢献できるように様々な形を模索して本事業を行ってゆきたい。

(森田尚久)



教 養 講 座

三月十三日、都神社庁会議室に於いて、都神青と都神社庁共催の教養講座が開催された。

國學院大學、大妻女子大学で教壇に立つ、神田神社禰宜の岸川雅範先生に、「災害から復興した神社と祭りについて」と題して、ご講演頂いた。

前半では、江戸時代から明治時代の祭礼が災害で中断した事例や、どのように復興していったかをご教授頂いた。幕府の命によってすぐさま復興が行われたケース、三十年以上復興が滞ったケース、また、祭礼の形が変わってしまったケースなど、様々な事例が紹介された。祭礼が執り行われない中でも、神々に対しての祈りは継続してきたこと、人々は信仰を保ち続けてきたということが印象的に感じた。

さらに、江戸時代の流行病を鎮める祭礼の事例、明治時代の流行病の蔓延によって祭礼が中止された事例が紹介され、人々の考え方や祭礼のあり方は関連していることを示された。

後半では、受講生をグループ分

けし、今の時代に神職はどのように神社を維持・運営していくべきかをディスカッションした。若手神職が集う「神道青年会」をより積極的に活用し、神職が日々お護りする神社で工夫していることや、神社で新しく始めた取り組みなどを、神職間で共有し、発信する機会を今以上に設けていくことが必要であろうと感じた。



今回の講座は、コロナ禍が明けて、それぞれの神社の祭礼が動き出していくにあたり、思考を深める有意義な時間となった。

(佐和橋義之)

定 時 総 会

四月十六日、都神社庁に於いて、令和六年度定時総会が開催された。

当日は小野庁長をはじめとした庁役員の皆様、神青協より吉田芳樹監事、都神社保育連合会より細野政和会長、神道婦人会より花見桂子会長、都氏青協より大井会長ら外郭団体の皆様、そして相談役賛助会員の先輩方も併せ、総勢五十四名のご参加を頂いた。

議事では、令和五年度の事業報告並びに決算報告、また令和六年度の事業計画並びに予算が審議され、いずれも原案通りに可決され



た。また、本年は本会創立七十五周年の年に当たするため、周年記念事業の経過報告並びに今後の周年記念事業計画、周年記念事業補正予算も併せて可決された。

その後、全ての議事が終了後、会議室後方にて直会を行い、場所を移して懇親会が催された。終始和やかな懇親会で、翌週に控えた神青協の周年大会への英気を養うと共に、既に終了した都神青の周年記念事業と、これから多く控える各種周年記念事業に向けての団結を深める懇親会となった。

二年の任期も後半となり、周年行事も大詰めとなるこの一年、会員皆で一致団結して、素晴らしい周年の年となるよう邁進すべく、皆心に刻む総会になった。



(渡邊輝比古)

主権回復記念日靖國神社参拝

四月二十八日の主権回復記念日に英霊達へ感謝の誠を捧げるべく靖國神社へ正式参拝を行った。昇殿し、先人の思いや失われたそれぞれの未来を想い、参加者一同で祈りを捧げた。

最後はこの日に参拝する意義を渋谷氷川神社田村康雄宮司・土師幸士相談役よりお話を頂いた。

本事業は昨年からのコロナ禍が明けて初めて人数を絞るなどの対策を取ることもなく通常通り開催されたが、コロナ禍を境に会員の参加が減っている傾向にある。

近年我が国が置かれている状況を重く受け止めて、毎日のように靖國神社へ心を寄せ、より多くの方々に積極的に参拝してほしいと切に願う。
(千葉布子)



周年事業報告

神宮奉告参拝

令和六年三月十八・十九日

外宮御垣内参拝
内宮御垣内参拝並御神樂奉納
神宮神青との懇親会
熱田神宮御垣内参拝
参加者 十七名



勤労奉仕

武蔵陵墓地

令和六年六月

十・十一日

大正天皇・

貞明皇后・昭

和天皇・香淳

皇后、各御陵

参拝



掃き掃除・除草等の清掃
参加者 十六名



神道行法鍊成研修会

武蔵御嶽神社御神域

令和六年七月四・五日

始禊祭・神拜行事・御滝行事・

夜間講義・終禊祭

講師 神社巡拝家佐々木優太先生

「佐々木優太が考える御師としての働き〜御師活〜」

参加者三十五名



※周年事業の詳細は創立七十五周年記念号にてお伝えいたします。

コラム

学生時代よく山に登っていた。登っているときは、なんでこんな辛いことを自分はしているのだろうなんて思うのだが、頂上の景色に感動し下山後の銭湯で癒されると、次ほどの山に登ろうかなんて思っていたのだから不思議なものである。

登山では様々なマナーがある。その一つにすれ違う登山者と挨拶をすることというのがある。その理由は、遭難した場合に備えてお互いの顔を覚えておくためである。最近では登山が以前より気軽なものになりつつあり、挨拶をしない、無視をする登山者も増えているとか。自身を危険に晒す行為であることをよく自覚してほしい。けれど、これは登山に限ったことではないのかもしれない。ご近所の繋がりが減る現代だが、災害時や緊急時一人ではどうにもならないことは確実にある。そんな折、挨拶を始めたとした繋がりを細くてもいいから作るのには、大切なことではないだろうかと思う。

「こんにちは！」
今日からでもその一言で繋がりを。





ニュース

都氏青協参拝旅行

第二十三回の都氏青協研修参拝旅行が、三月三日に参加者三十九名にて開催された。今回は栃木県宇都宮市に鎮座する宇都宮二荒山神社を正式参拝。ご由緒や歴史、宇都宮市の開発など、様々なことをお話し頂いた。

昼食懇親会では宇都宮餃子を堪能し、その後大谷資料館の見学、佐野観光農園アグリタウンでいちご狩りを行った。参加者は有意義な一日を過ごし帰路へ着いた。会員相互の懇親と親睦が一層深まった研修参拝旅行となった。

(中川岳士)

神青協中央研修会

三月七日・八日に札幌プリンスホテル国際館パミールに於いて、神青協主催、北海道神道青年協議会主管のもと、神青協中央研修会が開催された。

本研修会は主題を「未来への礎〜青年神職に伝えたいこと〜」とし、門田隆将先生、塚原敏夫先生、本橋麻里先生の三名にご講演を頂

いた。混沌とした現代情勢の中、神社が地域社会でどのように発展していくべきなのか、示唆に富んだ研修会であった。(田村康晃)

七協研修旅行会

三月二十一日・二十二日に長野県に於いて一七協研修旅行会が開催された。

初日は武水別神社に自由参拝をし、松田直隆権禰宜に神社の由緒を伺った後、隣接する武水別神社神官松田邸を見学した。

二日目は一面雪景色の森の中に鎮座していた戸隠神社に正式参拝をした後、武田博亮権禰宜に神社のご説明を受けた。旅行会に東京からは八名が参加し、七協の会員と更に親睦を深めることができた。

(田村康晃)

神青協七十五周年記念大会

四月二十三日、神青協創立七十五周年記念大会が明治記念館に於いて開催された。当会会員からは、五十三名が参加した。

開催に際しては当会が主管となり一七協協力のもと、神青協、同周年委員会と打ち合わせを重ねて準備を進めた。

大会当日、都神青会員は午前八時三十分集合、写真撮影の後、各担当部署に分かれて準備を進めた。各行事のリハーサル、習礼を経て、午後一時より物故者慰霊祭が相生の間にて、神青協小佐野正崇副会長が斎主を、当会森田尚久議長が副斎主を務めるなか、神青協役員、遺族など約三十名が参列し斎行された。



次に、午後二時より記念講演が蓬萊の間にて行われた。株式会社虎屋代表取締役会長の黒川光博先生をお迎えし「おいしい和菓子を喜んで召し上がって頂く」と題したご講演を頂いた。

午後四時からは記念式典が蓬萊の間にて行われた。会長式辞の後、記念表彰があり、東京からは田中芳明、宮崎真一、濱中伸洋、大野裕丈各先輩、小野雅楽会が表彰された。

式典後には、午後五時三十分から記念祝賀会が富士の間にて行われた。三笠宮彬子女王殿下の御台

臨を仰ぎ、ご来賓、諸先輩、会員など四百名近くの参加者が集まり盛大に行われた。

今回の創立七十五周年記念大会は、東京地区から出向している神青協大鳥居良人会長、同じく東京地区から神青協特別委員会である周年委員会に出向している篠泰比呂委員長、内海通人実行委員長という、神青協本体と都神青の両者の強固な協力の体制のもと一致団結し、無事盛会裡に納めることができた。

(田村康晃)



神青協定例総会

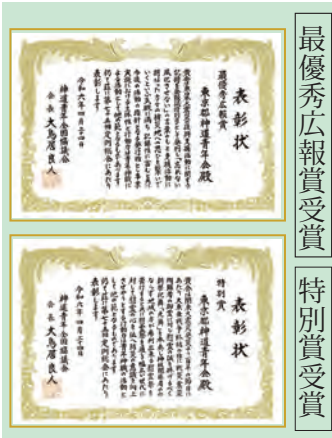
去る四月二十四日、第七十五回神青協定例総会が本社本庁に於いて開催された。

神殿拝礼より始まり、神青協大鳥居会長の開会の挨拶、ご来賓の田中恆清総長より激励のお言葉の後に全国から集まった会員の慎重審議の末、日程通り進められた。

会長は挨拶の中で能登半島での震災対策の現状説明や、代議員に向けて記念大会の御礼、遷宮御聴許を拝し遷宮啓発への意欲を示された。

定例表彰では、当会の「やくわえ災害特集号」が最優秀広報賞、「都内戦災震災殉難者慰霊祭並びに靖国神社参拝」が特別賞を受賞と二つの事業が表彰され、今後益々の研鑽が見込まれる。

(千葉布子)



一七協定例総会

六月三日、第三十回総会が千葉県神道青年会主管のもと、アパホテル&リゾート東京ベイ幕張で行われた。都神青からは九名の会員が参加し、本総会では役職員の交代が承認された。令和五年度に一七協の会長を務めた都神青篠会長が任期を満了し、令和六年度は副会長として会務の運営に当たることとなった。

総会終了後

は元宮内庁式部職業部で首席楽長の上明彦先生より、「宮中雅楽」に関する講演が行われた。

講演会終了後は、同会場にて懇親会が行われ、一都七県の青年神職が懇親を深めた。

恒例の芝球会は、今回に限り開催しなかった。

(齋藤剛)



神青協創立七十五周年記念事業 北方領土の碑祭典

六月二十日に神青協主催、北海道神道青年協議会共催のもと、納沙布金刀比羅神社境内に建立されている「北方領土の碑」に於いて、神青協七十五周年記念事業である北方領土早期復帰祈願祭が斎行された。前日には根室市琴平町に鎮座している金刀比羅神社に正式参拝をし、その後、元色丹島民の語り部の得能宏先生のご講演、また地元高校生二名による北方領土の歴史、現状、返還運動などの事前勉強会が開催された。

個人的なことであるが、私は平成二十一年に開催された神青協創立六十周年記念事業の神道少年団でこの地を訪れており、十五年の歳月を経て再び、北方領土が早期復帰するよう祈りを捧げることができた。

(田村康晃)



都氏青協定例総会

六月二十三日、明治記念館に於いて都氏青協の令和六年度の定例総会が、氏子青年会十三単位会並びに来賓・都神青役員・会員を含め五十八名の参加により行われた。

都氏青協大井会長・都神社庁幸田尚参事・都神青篠会長の挨拶に続き、令和五年度事業報告並びに決算・令和六年度事業計画並びに予算等の審議が行われ、慎重審議を頂き無事承認された。

閉会后、同記念館別室にて懇親会が行われた。昨年の忘年会より、和やかに親睦が深められるよう単位会会員をシャツフルして席次を決めており、会員同士の懇親が一層深められた。

また、本年十月

六日には全国氏青協関東地区連絡協議会(東京大会)を東京都主管のもと開催予定であり、成功を祈念し、閉宴となった。

(渡辺大祐)



東京都神道青年会 創立七十五周年記念事業趣旨

当会は、戦後の混乱が続く昭和二十四年「自己研鑽と神社神道の興隆を期す」という目標を掲げてより、令和六年に創立七十五周年を迎えます。令和の御代も六年を数え、斯界を取り巻く環境や現代社会の変化は大変に加速度的であり、十年一昔から一年一昔となり、その時代の進みは更にその速さを高めている実情にあります。日本が固有の国土の中で育んできた文化や思想のあり様も国際化の目まぐるしい進展や多様性を極める社会の中で、様々な影響を受けています。そして、文化や思想への影響に留まらず、国際情勢の不安定さが齎す脅威は領土と国民の生命にその手を伸ばそうとしています。

今、日本は発会当時の混乱とは異なれども、多くの変化や脅威に晒されています。現在の日本に生きる者には、これらの脅威や問題に真剣に向き合うことが望まれます。当会は国体の護持と日本文化の継承の担い手として、先輩諸賢より精神を受け継ぎ、今日まで伝統を紡いでまいりました。この難局にあつては、日本人そして青年神職としての矜恃を持って、今に向き合い活動をするために、この節目に臨みたく存じます。

そこで、周年の佳節に際し、当会の歴史を振り返り、次代へ想いを引き継ぎ、時代に即した行動を体現するべく、各種記念事業を左記の通り計画・実施いたす予定であります。

会員一同が一致団結し努めることはもとより、先輩諸賢また関係諸団体の御教導御協力もいただきながら諸活動に邁進して参る所存です。関係各位におかれましては、何卒御理解をいただき、本事業の実現と完遂のために格別のお力添えを頂戴いたしたく伏してお願ひ申し上げます。

東京都神道青年会 会長 篠 泰比

記念事業概要

事業名

開催(完了)時期

場所

一、記念大会の開催(物故者慰霊祭、記念式典、記念講演、記念祝賀会)	令和六年十月二十八日	東京ドームホテル
一、神宮奉告参拝	令和六年三月十八・十九日	神宮
一、都神青ホームページ更新	令和六年四月	
一、教化資材	令和六年四月	
一、勤労奉仕	令和六年六月十一日	武蔵陵墓地
一、神道行法鍊成研修会	令和六年七月四・五日	武蔵御嶽神社御神域
一、なつやすみ子供体験学習	令和六年七月二十三・二十四日	明治神宮
一、都内戦災震災殉難者慰霊祭並びに靖國神社参拝	令和六年八月十五日	東京都慰霊堂・靖國神社
一、TSS懇親事業	令和六年八月	穴守稲荷神社・JALスカイミュージアム・羽田空港キャラクシーホール
一、御朱印展―東京の神社御朱印大集結―	令和六年十二月十二日～十六日	銀座アポロ昭和館YOHAKU
一、国内慰霊祭	令和七年三月四・五日	八丈島
一、「やくわえ」記念号発行		
一、その他		以上



都神青の主な活動と予定

YOHAKU

【令和六年】

七月二三・二四日

なつやすみ子供神社
体験学習 明治神宮

八月 九日 役員会⑤連絡会②

十五日 都内戦災震災殉難者
慰霊祭並びに靖國神
社参拝

東京都慰霊堂
靖國神社

二八日 TSS懇親事業

穴守稲荷神社

JALスカイミュージアム
羽田空港キャラシーホール

九月 二日 役員会⑥ 都神社庁

十月 三日 役員会⑦ 都神社庁

二八日 創立七十五周年記念
大会

東京ドームホテル

十一月二日 役員会⑧連絡会③

都神社庁

一七日 忘年会

もんじゃ風月月島店

十二月十二日～十六日

御朱印展―東京の神
社御朱印大集結―

銀座アポロ昭和館

【令和七年】

一月 大寒禊錬成研修会

明治神宮

二月 三十一日 新年会 神田神社

三月四・五日 臨時総会 都神社庁

国内慰霊祭 八丈島

※青字は創立七十五周年記念事業

《関係団体の活動と予定》

【令和六年】

九月五・六日

神青協創立七十五周
年記念事業竹島之碑
祭典 竹島之碑

十日 一七協神職野球大会

大井ふ頭中央海浜
公園スポーツの森

十一月十九日 神青協臨時総会

神社本庁

【令和七年】

三月十八・十九日

神青協神宮研修会

神宮



大歓声に包まれて閉会したパリオリンピックの開催中に、日向灘を震源とする大きな地震が発生しました。南海トラフ地震に対して、気象庁から「巨大地震注意」が発表されたことにより、防災について考えさせられました。日向灘地震発生少し前には、都知事選があり、小池百合子氏が当選しました。選挙ポスターの掲示場に大量の同じポスターが貼られたり、政見放送で候補者が服を脱ぎ始めたりしたことで、選挙に対してモラルが問われています。また、ウクライナとロシアの戦争は未だ収束の目途が立たず、中国では台湾を我が物にせんと着々と準備を進めている状況であり、我が国を取り巻く世界情勢が依然として、不安定な状態となっています。

当会は、創立七十五周年の佳節を迎えています。周年の年にはこれまでの歴史を紡ぎ、未来を創り次世代に活かすために、歴史を振り返り、様々な検証を行います。検証という少し堅苦しく聞こえるかもしれませんが、「今までの活動を振り返る」というと、しつ

くりするのではないのでしょうか。多くの先輩達から次世代へ繋いできたバトンを我々が受け継いでいると考えると更に重みを感じます。東京都神道青年会五十年史に、「昭和二十四年八月三日、都内の各地で活動していた十二の青年会の代表約三十名が全国の動きに呼応するように國學院大學旧祭祀教室に集まり、東京都神道青年協議会を結成する。」と記載されています。その中で『創立精神は「民族精神の基礎となる神社信仰本義に徹し、国民再興のために強力なる運動を展開せん」とあります。東京都神道青年会という名称での発足は、「昭和三十一年七月二十一日に東京都神道青年協議会の幕を閉じ神道青年会を発足、初代会長として細野喜八先輩が就任された。」と記載があります。

戦後の日本の歴史と共に青年会の歴史があり、来年终戦より八十年を迎えるにあたり、創立精神がより強く心に響きます。我々青年神職は、発足当初の想いを紡いでいくために、「歴史と想い」をよく理解し、原点を忘れずに、新しいことに挑戦し、日々邁進してまいります。



令和6年度 東京都神道青年会 役職・所属名簿

【三役・監事】

Table with 4 columns: Position, Name, Affiliation, and Special Duties. Includes roles like 会長 (President), 副会長 (Vice President), and 議長 (Chairman).

Table with 4 columns: Position, Name, Affiliation, and Special Duties. Includes roles like 監事 (Supervisor).

【相談役】

Table with 4 columns: Name, Affiliation, and Special Duties. Lists advisory roles.

【総務部】

Table with 3 columns: Position, Name, and Affiliation. Lists staff in the General Affairs Department.

【教養部】

Table with 3 columns: Position, Name, and Affiliation. Lists staff in the Education and Culture Department.

【教化部】

Table with 3 columns: Position, Name, and Affiliation. Lists staff in the Education and Culture Department.

【渉外部】

Table with 3 columns: Position, Name, and Affiliation. Lists staff in the External Relations Department.

【広報部】

Table with 3 columns: Position, Name, and Affiliation. Lists staff in the Public Relations Department.

【事業部】

Table with 3 columns: Position, Name, and Affiliation. Lists staff in the Business Department.

【地区委員一覧】

Table with 4 columns: Region, Name, and Affiliation. Lists regional committee members.

Table with 4 columns: Name, Affiliation, and Special Duties. Lists regional committee members.

Table with 4 columns: Name, Affiliation, and Special Duties. Lists regional committee members.



編集後記

▼十年以上広報部に携わらせていただきましたが、その間にも電子機器をはじめ色々な物がハイテクになりました。なりすぎて若干ついていけてません。写真も高画質すぎてすぐに容量がいっぱいです。十年後、広報部の写真データはどうなってるんだろう……。 (瑛)

▼境内の池で鯉がアライグマの餌食に。罨を仕掛けるとまぎ野良ネコが捕まり、次にハクビシン、次にタヌキ、四度目にしてアライグマの捕獲に成功。境内であっても自ら罨を設置し、捕獲する際は行政の許可を得ないと法に触れるそうです。皆さんご注意ください。(瀨)

▼残暑が厳しいと言いますが、最近は特に厳しすぎるのでは……。節電しなければと思っただけ、つついっくラーのリモコンへ手が伸びてしまいます。まだまだ修行が足りないなと反省しつつ、涼しい部屋で編集後記を書いてます。(宇)

▼子どもの保育園の連絡帳に何を書こう、というのが日々のノルマの一つとなつてくる。ほぼ毎日となるとネタも尽きてくる。別に面白さを求められているわけではないのだが……。文章を書くって難しい！ 皆様いつも原稿ありがとうございます！ (樹)

▼夏場の外作業では蚊との闘いに見舞われがちだった近年ですが、今年はほとんど見掛けず、日照の暑さはさておき、例年より快適に過ごすことができました。青年会の行事にも広報部の活動にも中々貢献できておりませんが、やくわえの活動報告を通じて知見を広げることが叶い、大変有難く感じています。(麻)

▼どんなに暑かろうと夏の終わりは寂しくなる。殺虫剤をかけられたGが逃げ場を求め、襟の間から服の中に入り込み絶叫する事件が起きようとも、今年の夏は一生に一度しか訪れないのだ。(知)

「やくわえ」一一〇号にて表記に誤りがございました。十七ページ三段目、雅楽クラブ連絡先誤・八幡神社、正・香取神社お詫びして訂正致します

部・クラブ・同好会紹介

野球部

募集！初心者大歓迎！



〈連絡先〉
濱中 貴文
大鷲神社権禰宜
03-3858-1132
昭和31年発足

雅楽クラブ

雅楽を楽しみたい方大歓迎



〈連絡先〉
香取 正彦
香取神社禰宜
03-3684-2813
平成13年発足

釣りクラブ

釣果を気にする必要なし
打ち上げからの参加も歓迎！



〈連絡先〉
本橋 知子
馬橋稲荷神社権禰宜
03-3311-8588
平成8年発足

フットサル同好会

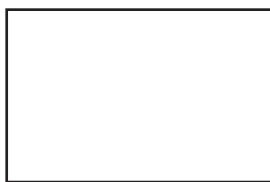
初心者大歓迎！



〈連絡先〉
田村 仁志
大宮八幡宮権禰宜
03-3311-0105
平成17年発足

演劇同好会

参加者熱烈募集中！



〈連絡先〉
関 龍太郎
八幡神社禰宜
tss.geki@gmail.com
平成23年発足

東京都神道青年会
東京都港区元赤坂二一一三
東京都神社庁内
電話三四〇四一六五二五(代)

表紙題字
第三代東京都神社庁長
大鳥居吾朗先生